

EPSON
EXCEED YOUR VISION

70th
ANNIVERSARY

2011年度(2012年3月期) 第4四半期 決算説明会

2012年 4月27日

セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

開示セグメントの変更について

【2011年度】

- ものづくり基盤の再構築・強化を迅速に実行することを狙いとして、「電子デバイス事業セグメント」と「精密機器事業セグメント」を統合し、「デバイス精密機器事業セグメント」とする
- 「中・小型液晶ディスプレイ」のオペレーション終結を受け、2011年度以降発生する損益については「その他」に集約

【ビジュアルプロダクツ事業部(10月1日組織変更)】

- 映像分野における事業領域の拡大を確実なものとするため、「映像機器事業(プロジェクター)」<情報関連機器セグメント>と「TFT(HTPS)事業」<デバイス精密機器セグメント>を統合し、「ビジュアルプロダクツ事業部」<情報関連機器セグメント>とする

* 本資料では、上記内容について、
2010年度実績値 ならびに2011年度実績値、予想数値の補正を行った上で説明

■ 開示セグメントの変更内容

2011年度通期決算
2012年度業績予想

2011年度
第4四半期決算

決算ハイライト（通期）

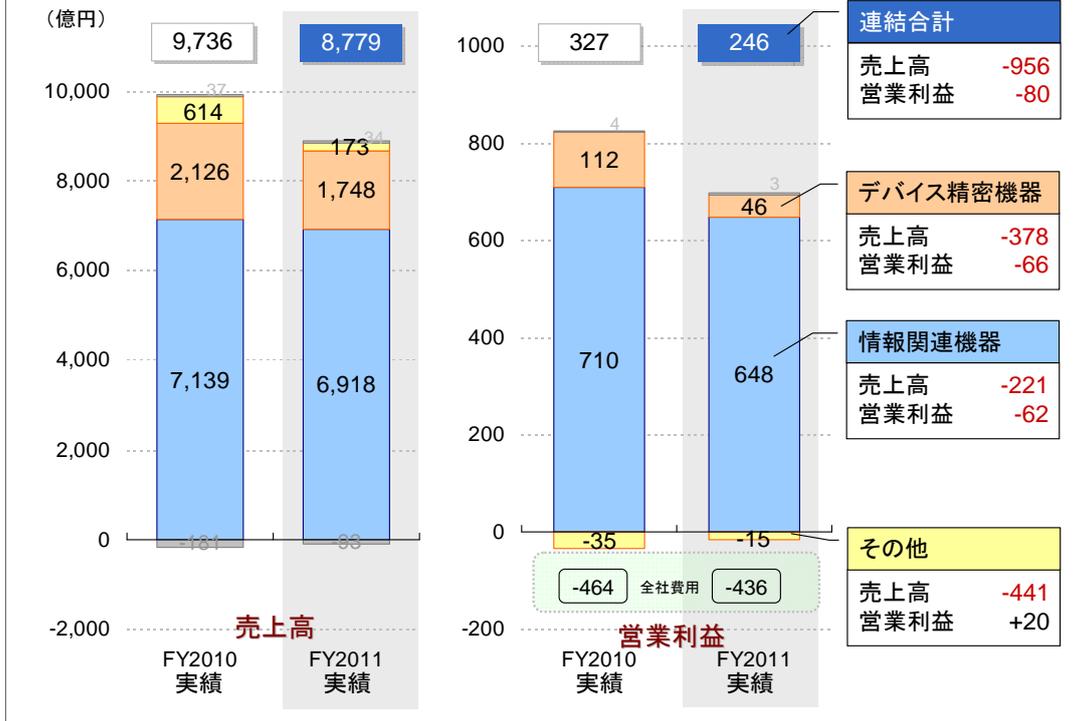


(億円)	2010年度		2011年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	1/31予想		実績		前期 実績比	1/31 予想比
				%		%		
売上高	9,736	-	8,800	-	8,779	-	-956 -9.8%	-20 -0.2%
営業利益	327	3.4%	270	3.1%	246	2.8%	-80 -24.7%	-23 -8.8%
経常利益	311	3.2%	270	3.1%	270	3.1%	-41 -13.3%	+0 +0.1%
税引前利益	153	1.6%	150	1.7%	156	1.8%	+2 +1.6%	+6 +4.1%
当期純利益	102	1.1%	50	0.6%	50	0.6%	-52 -50.9%	+0 +0.6%
EPS	51.25 円		26.06 円		26.22 円			
換算 レート	USD	85.72 円	78.00 円		79.08 円			
	EUR	113.12 円	108.00 円		108.98 円			

■ 2011年度 通期決算ハイライト

- 売上高は 8,779億円
- 営業利益は 246億円
- 当期純利益は 50億円。

2011年度業績▶事業セグメント別



■ 2011年度 事業セグメント別実績

■ インクジェットプリンター:

- ✓ 東日本大震災、タイ洪水により生産・供給面に遅れ、エア輸送などの対応費用が発生
- ✓ 上期の本体数量減が、消耗品需要回復に影響
- ✓ 下期、ホーム、オフィス、エマージング市場向けに競争力の高い製品投入
- ✓ 本体は年間目標数量には届かなかったものの、
下期は欧米市場が前年割れの中、当社は各市場において確実に数量増

■ ビジネスシステム:

- ✓ SIDMの中国における徴税需要が鈍化するものの、
入札案件獲得成果もあり堅調に推移
- ✓ POS関連製品は米州・亜州の小売店舗向けを中心に堅調も、
先進国を中心に大型案件の動きが低調

■ プロジェクター:

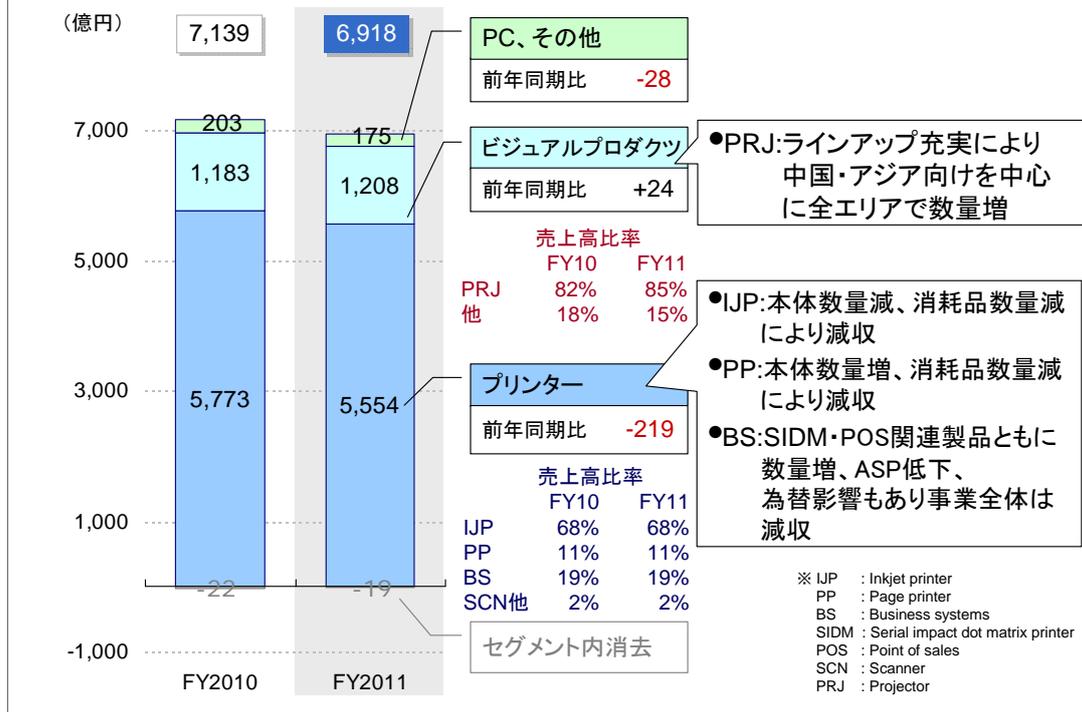
- ✓ 年間目標数量には届かなかったものの、ホーム、ビジネス、教育市場向け
ラインアップ充実により、中国・アジアを中心に全エリアで前年比数量増

■ マイクロデバイス:

- ✓ 景気低迷影響を受けるものの、体制整備は着実に進捗
- ✓ 情報関連機器成長分野への要員転換により、事業規模適正化の推進

■ 2011年度を総括

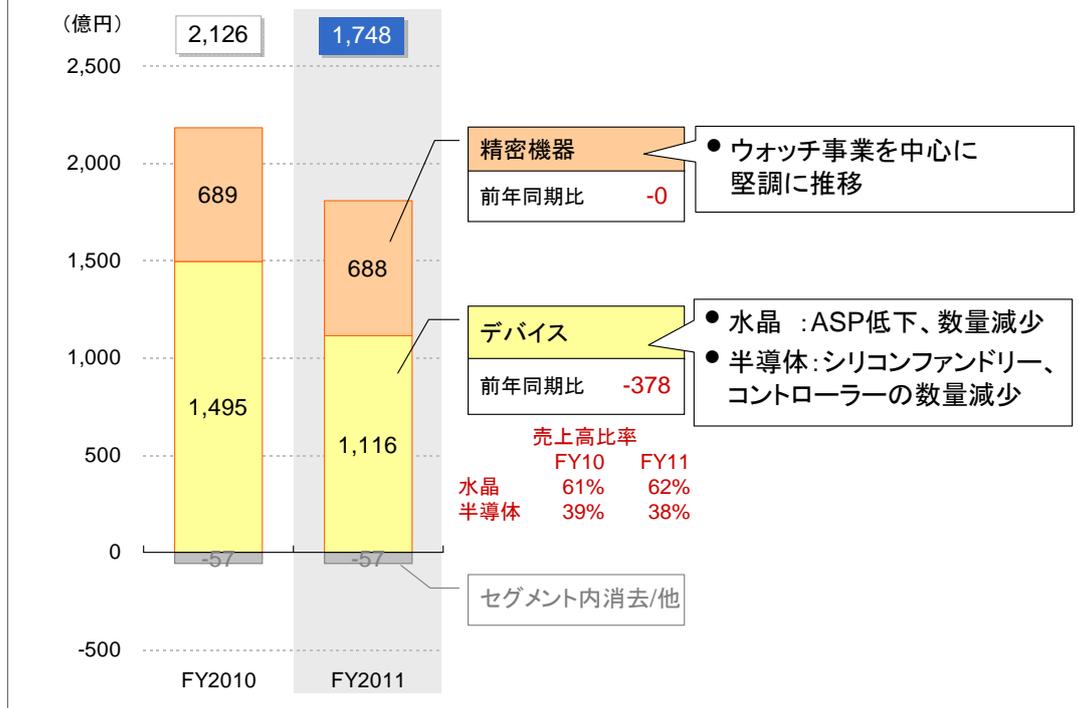
売上高比較(通期) ▶ 情報関連機器セグメント



■ 2011年度 情報関連機器セグメント

- インクジェットプリンターは、上期は、東日本大震災の影響により生産・供給に遅れが生じたため、本体の販売数量が前年に比べ大きく減少し、消耗品需要にも影響がでた。一方下期は、秋に投入した新製品が、各市場において高い評価を受ける中で、タイ洪水の影響により再び生産・供給に遅れが発生したため、エア輸送や地域別の製品アロケーションを行い、強い需要への対応を進めた。
これらの結果、本体は年間では目標販売数量に届かなかったものの、下期においては、欧米市場が前年割れで推移する中、当社はワールドワイドで10%近く本体の販売数量を伸ばした。直近の週間シェアでは、北米市場で20%、欧州5カ国では30%以上を、コンスタントに達成しており、製品競争力を強化した成果が着実に表れている。
- SIDMは、好調だった中国における徴税需要が下期に入り鈍化したものの、従来から取り組んできた入札案件の獲得成果もあり、堅調に推移。POS関連製品は、米州・アジアの小売店舗向けを中心に 堅調に推移したが、先進国における大型案件の動きが低調。
- プロジェクターは、高い目標数量には届かなかったものの、ホーム、ビジネス、高輝度などの 製品投入によるラインナップ拡充や、エマージング地域における 教育需要への対応により、年間15%の数量成長を達成。

売上高比較(通期) ▶ デバイス精密機器セグメント



■ 2011年度 デバイス精密機器セグメント

- ▶ 水晶・半導体のマイクロデバイスは、景気低迷による需要減少の影響などを受け、大幅な減収。そうした中、2011年度は、水晶事業と半導体事業の組織融合を進めるとともに、生産拠点の集約や、情報関連機器などの成長分野への要員転換により、事業規模の適正化をはかるなど、収益をあげられる体制に向けた整備を、着実に進捗。

2012年度 業績予想

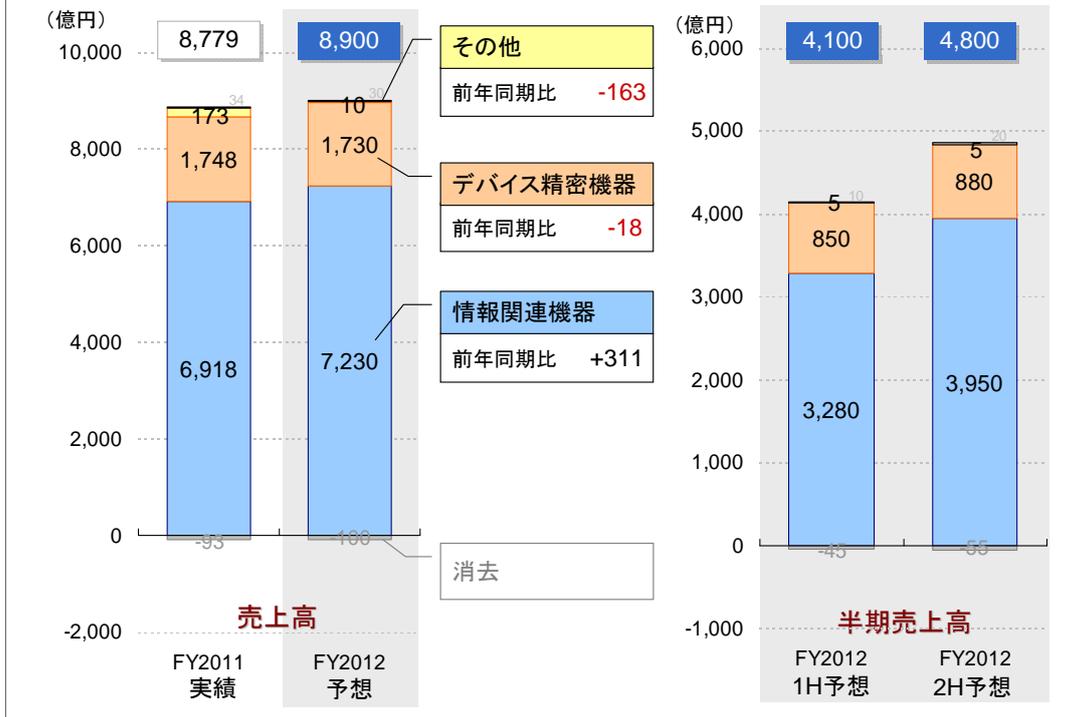


(億円)	2011年度		2012年度		増減	
	通期実績	%	通期予想	%	増減額	増減率
売上高	8,779	-	8,900	-	+120	+1.4%
営業利益	246	2.8%	350	3.9%	+103	+42.1%
経常利益	270	3.1%	330	3.7%	+59	+22.1%
税引前利益	156	1.8%	230	2.6%	+73	+47.2%
当期純利益	50	0.6%	140	1.6%	+89	+178.2%
EPS	26.22円		78.26円			
換算 レート	USD	79.08円	75.00円			
	EUR	108.98円	100.00円			

■ 2012年度の業績予想

- 為替前提は USD 75円、ユーロ 100円とし、売上高は 前年同期比 120億円増収の 8,900億円、営業利益は 103億円増益の 350億円を予想。
- 3月15日に発表した中期経営計画で掲げた業績目標から2012年度の予想数値に 変更はない。
- 当期純利益は 89億円増益の140億円を予想。

2012年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■ 2012年度 事業セグメント別売上高予想

- 情報関連機器は、前期比 311億円の 増収を
- デバイス精密機器は、前期比 18億円の 減収を それぞれ予想。

■ インクジェットプリンター:

- ✓ 中期戦略にもとづき、ホーム、オフィス、エマージング市場向けにラインアップを拡充し、前年比10%以上の数量増を目指す
- ✓ 小型化モデルのホーム、オフィス領域への全面展開
- ✓ 商業領域においては、プラットフォーム化によるコストダウンを実現したLFPで、サインージやCAD、エマージングなどへ領域を拡大
- ✓ 本体販売数量増加とともに、下期からの消耗品売上高の拡大を見込む

■ ビジネスシステム:

- ✓ SIDMの中国における安定的な徴税需要に加え、銀行や農村部などの新規需要や、入札案件への対応
- ✓ POS関連製品は大型・中小小売店舗向け需要への対応、インテリジェント化などの提案による新規需要の開拓、販売力の強化による事業成長

■ プロジェクター:

- ✓ 先進国のビジネスや高輝度領域などの拡大
- ✓ エマージングの教育需要取り込みと販売体制整備

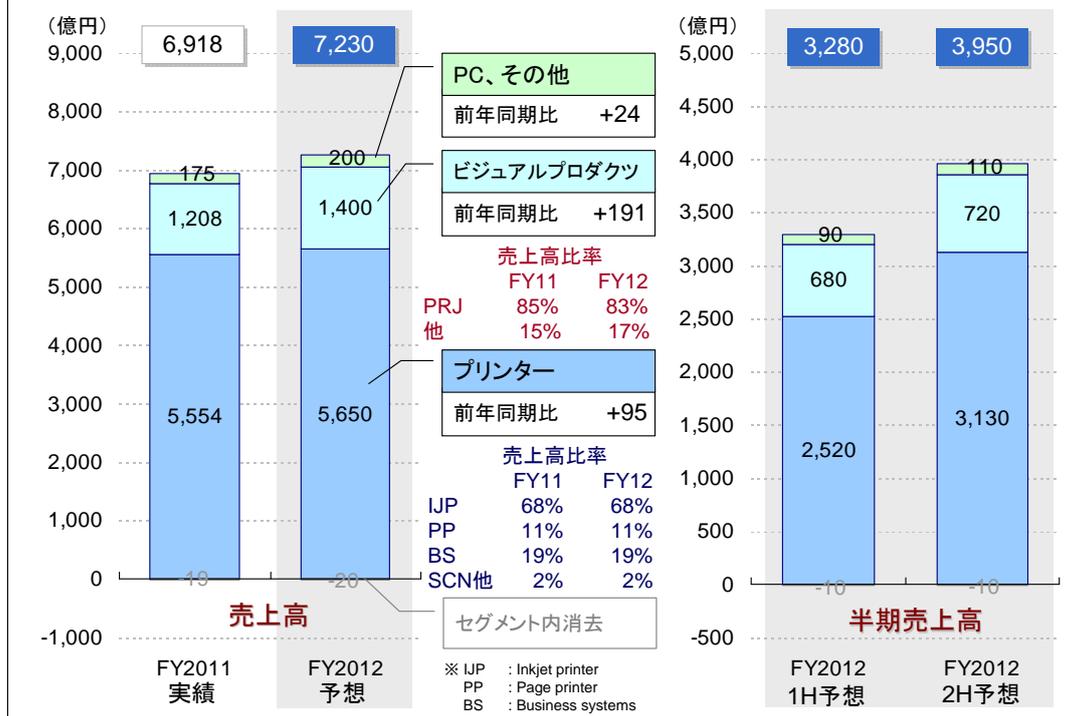
■ マイクロデバイス:

- ✓ 要員構造改革を完遂させ、事業規模を適正化
- ✓ 高付加価値製品への取り組みを加速
- ✓ 変動費、固定費の削減により、確実に利益を回復

■ 2012年度の取り組み

- 2011年度の成果を踏まえ、SE15中期経営計画の達成に向けた経営の方向性・諸施策をぶれることなく、スピードを上げて推し進める。

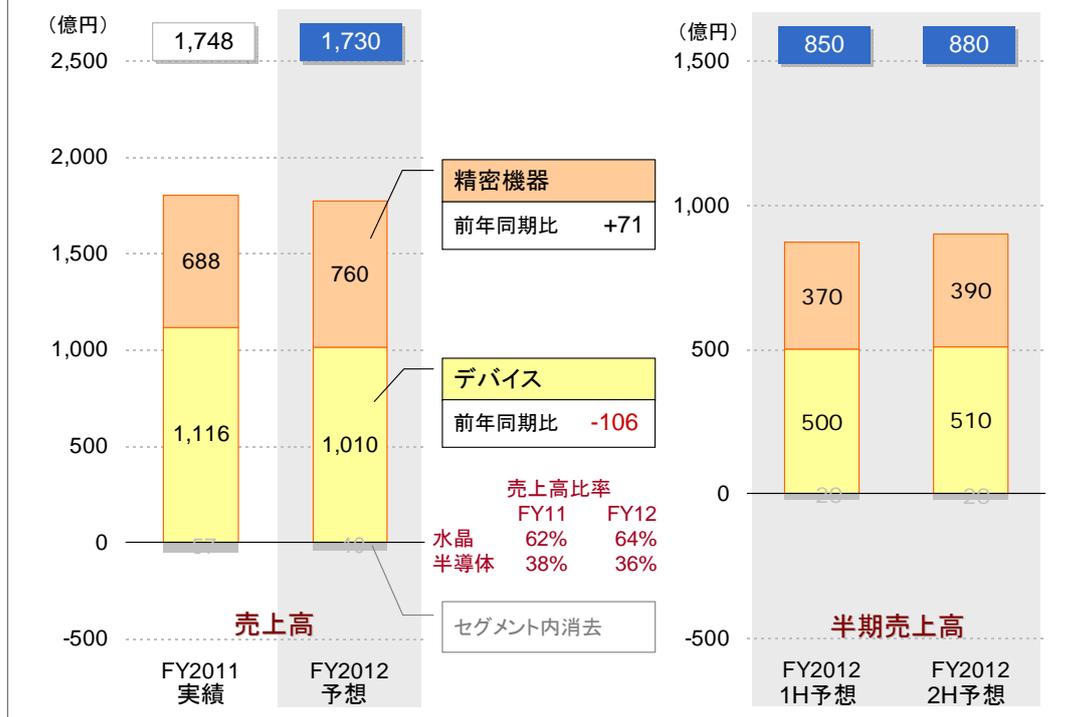
事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 2012年度 情報関連機器セグメント

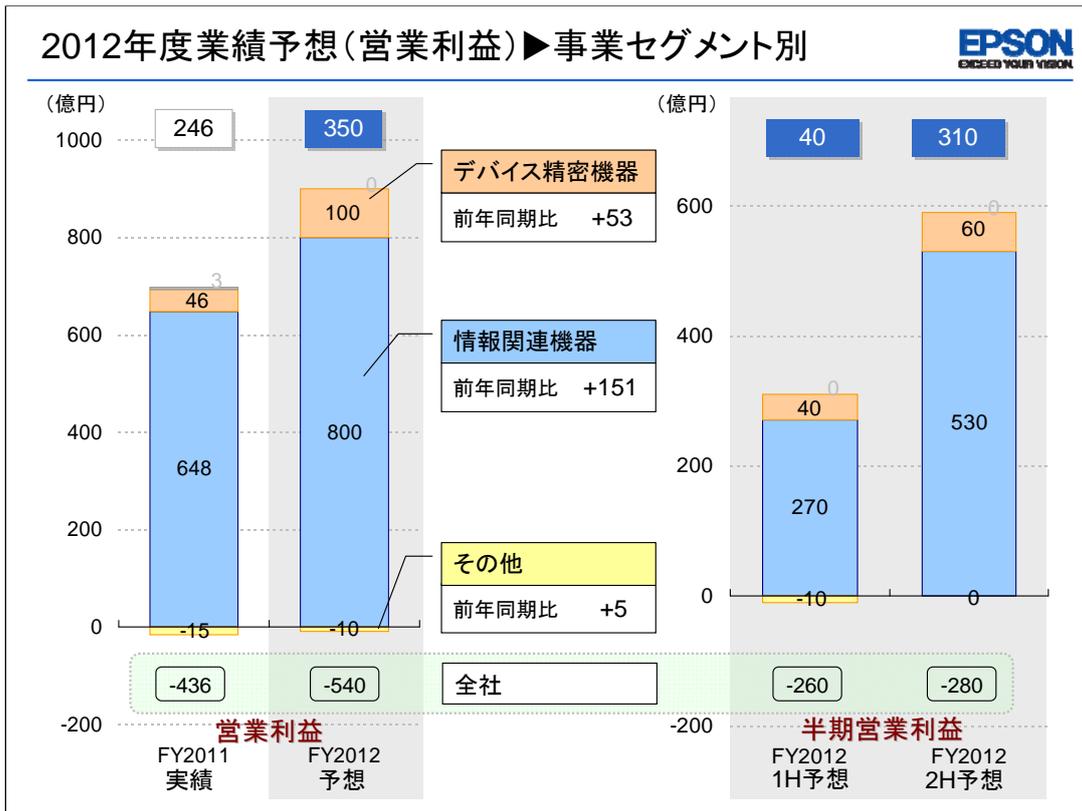
- プリンター事業は、前期比 95億円増収の 5,650億円を予想。各事業領域において中期戦略にもとづいた諸施策を計画どおり展開し、売上・利益の拡大をはかる。
- インクジェットプリンターは、ホーム、オフィス、エマージング市場向けにラインアップを一層拡充し、本体は2011年度実績 1,460万台に対して10%以上の数量増を計画しており、増収を予想。同時に、前年投入した小型化モデルをホーム、オフィス領域へ全面展開し、競争力の強化と、コストダウン効果を拡げる。また、商業領域では、ラージフォーマットプリンターにおいても、プラットフォーム化設計を導入し、サイネージやCAD、エマージング市場向けのラインナップを整え、事業領域を拡大すると同時に、コストダウンも実現する。
- ページプリンターは、引き続き 競争力のある製品を投入。
- ビジネスシステムは、SIDMは、中国の徴税システムの導入ピークは過ぎたが、今後も安定的な需要が継続することに加え、銀行や農村などの新規需要や、入札案件の獲得を進める。POS関連製品は、小売店舗向け需要への対応や、インテリジェント化などの提案による新規需要の開拓、販売力の強化などを進める。
- ビジュアルプロダクツは、前期比 191億円増収の1,400億円を予想。プロジェクターは、製品ラインナップの一層の強化により先進国におけるビジネスや高輝度領域などの拡大、エマージング市場での教育需要の取り込みと販売体制の整備を進め、前年比 20%以上の数量成長でシェアを一層拡大。
- 情報関連機器の半期売上高については、上期は、IJP本体数量増を見込む一方、前年上期における本体販売数量減に伴う消耗品回復の遅れと、SIDMの徴税需要減少などを織り込む。下期は、上期におけるIJP本体数量増や、オフィス向け製品の数量増効果による消耗品売上の拡大、ラージフォーマットプリンターの新製品投入効果、ならびにPOS関連製品の販売拡大を、それぞれ見込む。

事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ 2012年度 デバイス精密機器セグメント

- デバイス事業は水晶を中心に、需要の回復に伴う数量増を見込むが、単価下落を織り込むことから、前期比 106億円減収の1,010億円を予想。
- 精密機器事業は、ウォッチにおけるムーブメントおよびソーラー電波時計などの数量増と、FAにおけるハンドラーの需要回復およびロボットの需要拡大を見込むことから、前期比 71億円増収の、760億円を予想。



■ 2012年度 事業セグメント別営業利益予想

- 情報関連機器は、前期比 151億円の増益を予想。
- インクジェットプリンターは、上期、下期ともに増益を見込む。上期は、前年上期における本体販売数量減少による消耗品回復の遅れと、年末商戦に向けた本体製造数量増、ならびに円高影響を織り込むが、本体販売数量増および損益改善施策の成果を見込む。下期は、充実した新製品ラインナップによる増収に加え、オフィス向けを中心とした本体数量増による消耗品売上拡大と、小型化製品の全面展開によるコストダウン効果を見込む。
- ページプリンターは減益予想、ビジネスシステム、ビジュアルプロダクツは増益予想。
- デバイス精密機器は、前期比 53億円の増益を予想。
マイクロデバイス事業の要員構造改革を完遂させ、売上高規模に見合ったシンプルな組織構造として、高付加価値製品への取り組みを加速するとともに、固定費・変動費の削減により、確実に黒字化。
- 全社費用は、マイクロデバイス事業の要員転換に係る一時的なコスト増を見込む。

2011年度通期決算
2012年度業績予想

2011年度
第4四半期決算

決算ハイライト（第4四半期決算）

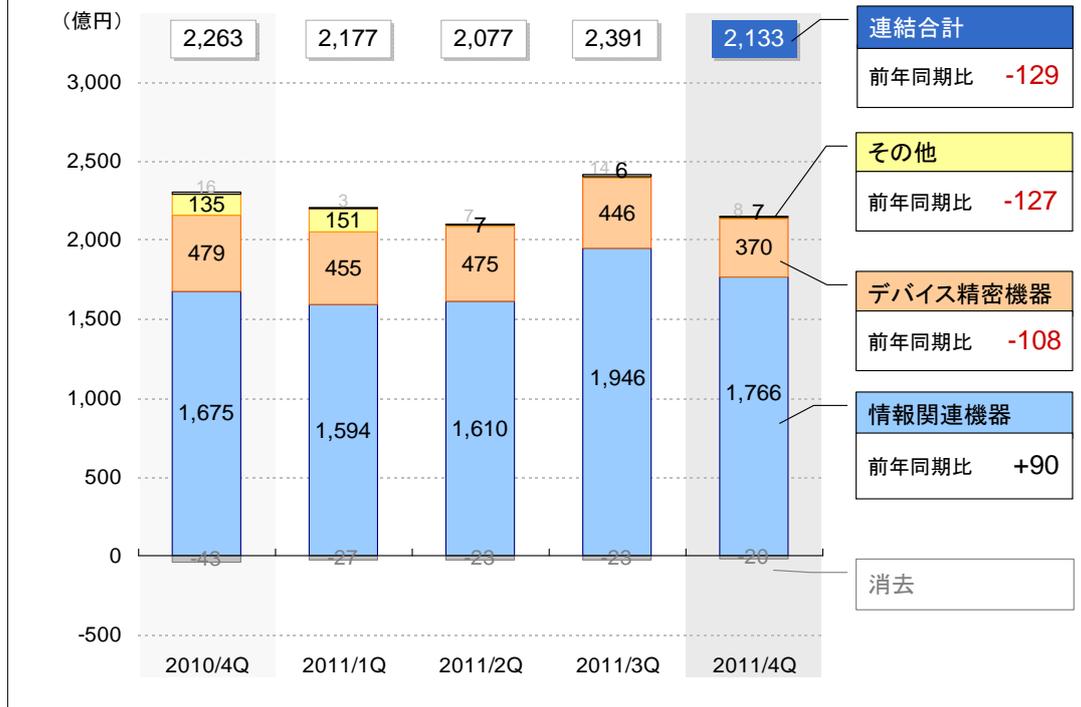


(億円)	2010年度		2011年度		増減	
	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,263	-	2,133	-	-129	-5.7%
営業利益	△11	-0.5%	35	1.7%	+47	-
経常利益	△13	-0.6%	55	2.6%	+69	-
税引前利益	△108	-4.8%	70	3.3%	+178	-
四半期純利益	△67	-3.0%	46	2.2%	+113	-
EPS	△33.86円		25.90円			
換算 レート	USD	82.34円	79.28円			
	EUR	112.57円	103.98円			

■ 2011年度 第4四半期実績

- 売上高は、前年同期比 5.7%減収の 2,133億円、
営業利益が 47億円増益の 35億円、
四半期純利益が 113億円増益の 46億円。

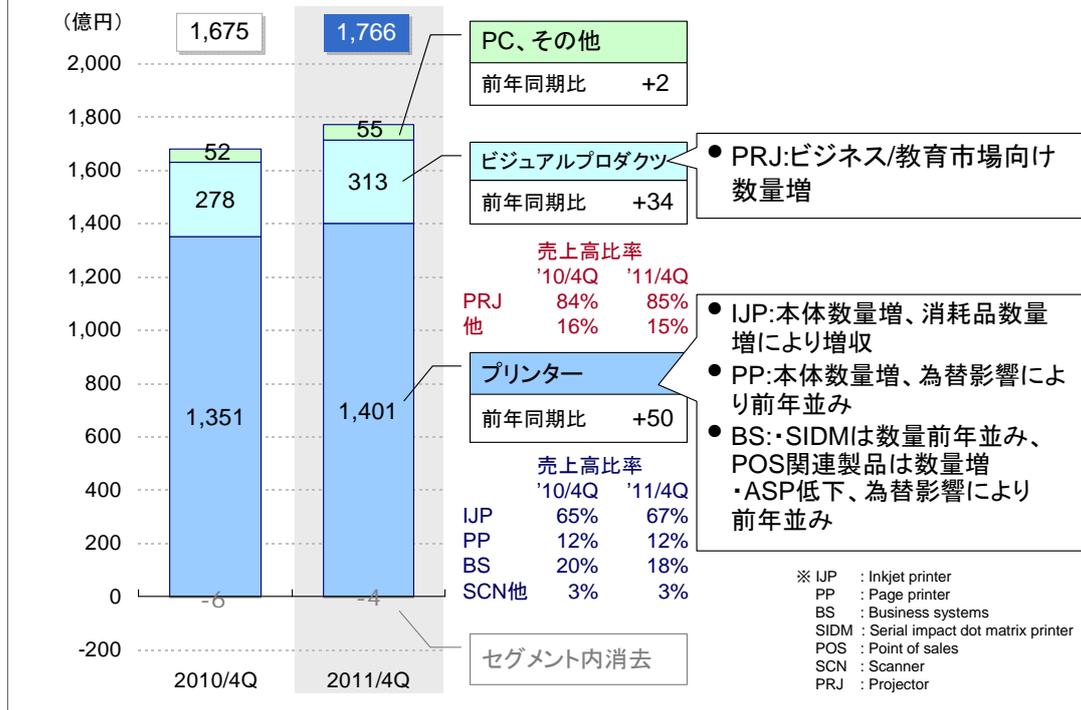
四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器セグメントは、前年同期比 90億円の増収、デバイス精密機器セグメントは、前年同期比 108億円の減収。
- その他セグメントの減収は、中・小型液晶ディスプレイ事業の終結による。
- 当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、約66億円のマイナス影響。

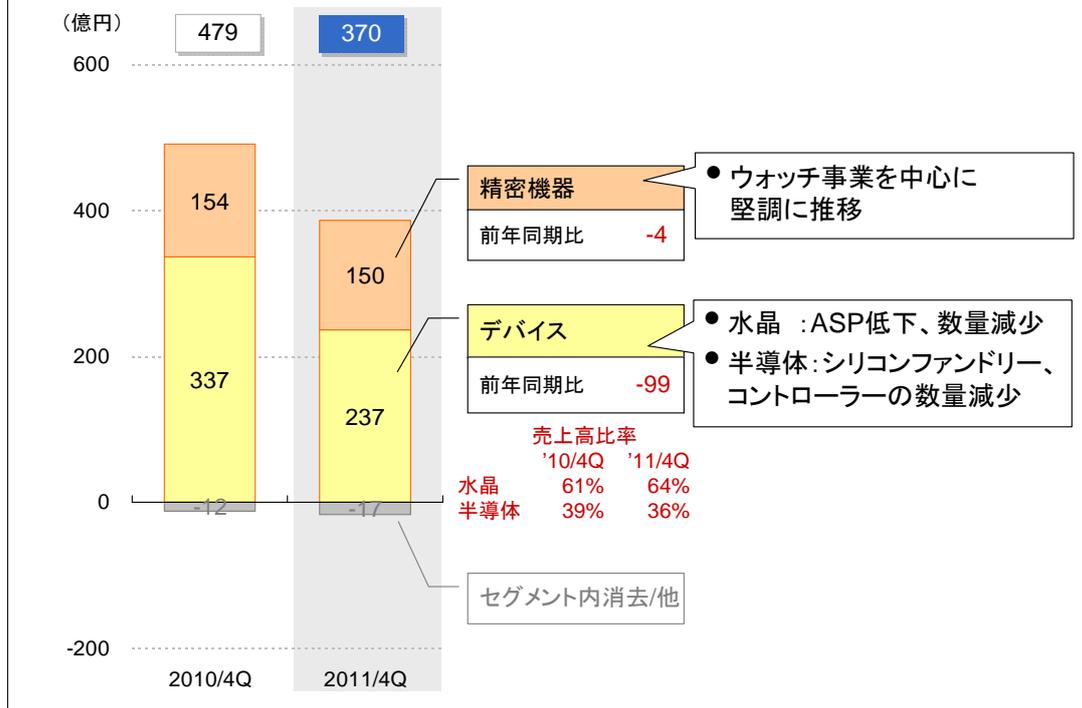
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの 第4四半期 売上高

- 当セグメントでは全ての事業が、円高による影響を受けました。
- プリンター事業は、50億円の増収
- インクジェットプリンターは、本体、消耗品ともに数量増により増収。本体の地域別状況については、欧米市場が前年割れとなる中、当社は北米、欧州、アジア、日本の、ほぼすべての地域において数量増。消耗品については、ビジネスモデルを転換しているアジアを除く、日本、米州、欧州において数量を伸ばした。
- ページプリンターは、入札案件などへの積極的な取り組みにより、日本、アジアにおいて本体数量を伸ばしたものの、為替影響などにより、前年並み。
- ビジネスシステムは、SIDMが、中国向けの徴税需要の取り込みや、欧州における入札案件などにより、数量は前年並み、POS関連製品は、欧米・中国の小売店舗向けに堅調で数量増。しかし、SIDM、POS関連製品ともに、普及価格帯製品の販売が中心となったこと、為替影響で減収。
- ビジュアルプロダクツは、先進国におけるビジネス向け、ならびにアジアのビジネス・教育市場向けを中心に数量増、前年同期比 34億円の増収。
- 前回計画との比較について。
- インクジェットプリンターの売上高は、本体は数量未達となったものの、消耗品の増加により、予想を上回った。
- ビジネスシステムは、POS関連製品が未達。
- ページプリンターは、ほぼ予想どおり。
- ビジュアルプロダクツは、販売数量が未達。

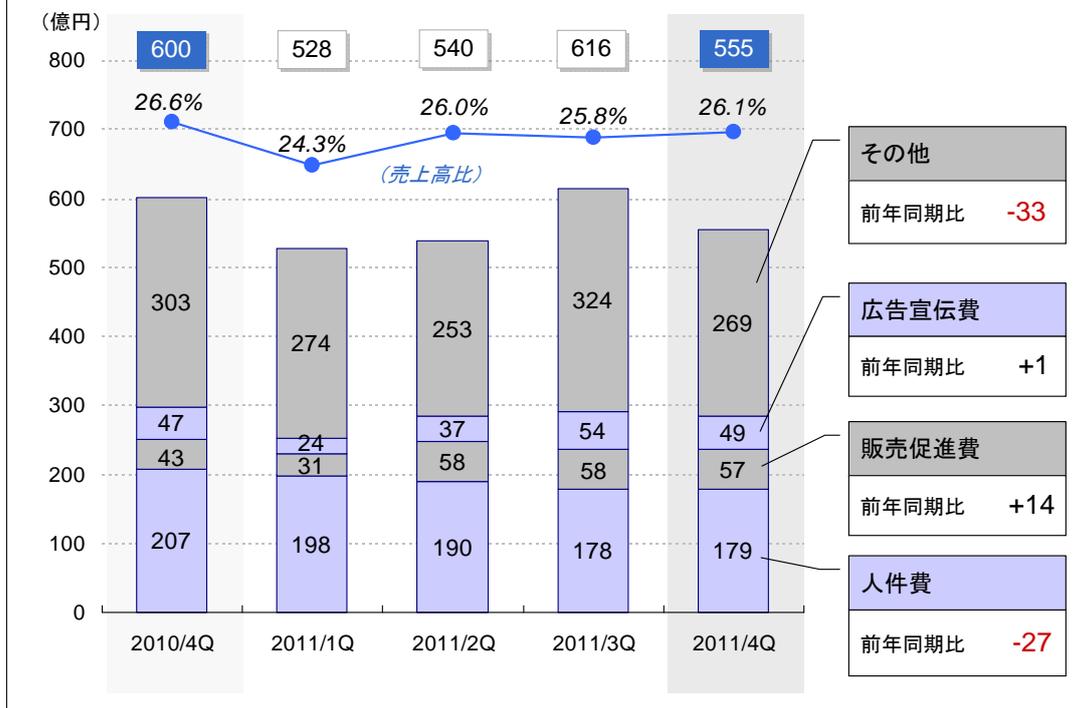
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器事業セグメント 第4四半期売上高

- デバイスは、水晶デバイスが、ASPの低下 ならびに景気低迷による需要の減少により、また半導体が、シリコンファンドリーの数量が減少したことに加え、コントローラーの数量減により、いずれも減収。
- 精密機器は、ウォッチ事業を中心に堅調に推移し、前年並み。
- 前回計画との比較では、精密機器は、FA機器が予想を下回ったものの、デバイスは、水晶と半導体がともに予想を上回ったことにより、セグメント全体では、ほぼ予想どおり。

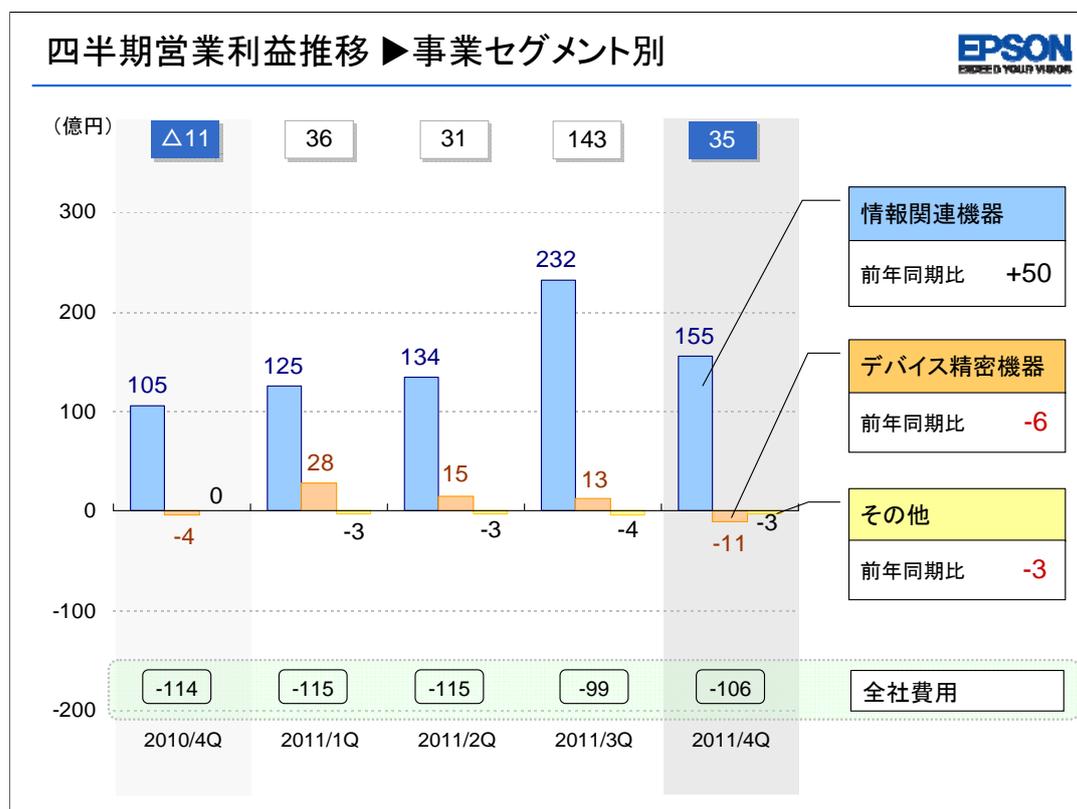
四半期販売費及び一般管理費推移



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 年末に引き続き、競争力が高い製品の販売拡大に向け、積極的に販売促進費を投入する一方、費用の効率的な執行に努めたことにより販管費トータルで減少。

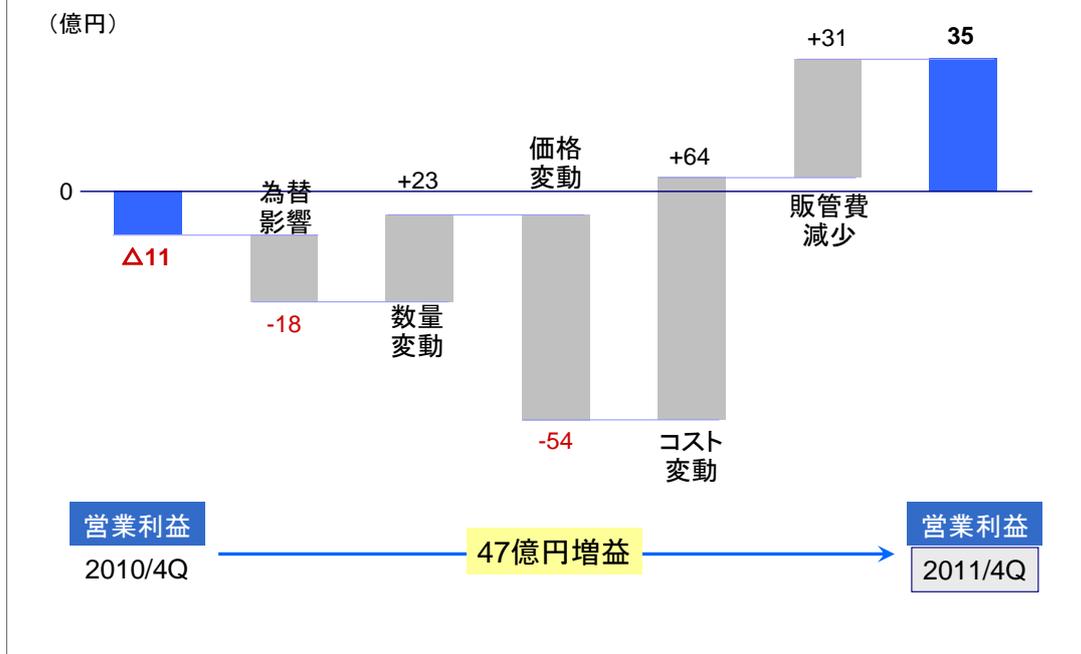
四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 全社として、為替により約18億円のマイナス影響
- 情報関連機器は、前年同期比 50億円増益の 155億円。
- インクジェットプリンターは、本体の収益性改善に加え、消耗品の数量が増加したことにより、増益。
- ビジュアルプロダクツは増収により、ページプリンターはコストダウン効果により、いずれも増益。
- ビジネスシステムは、減収により減益。
- デバイス精密機器は、精密機器が、ウォッチ事業で高付加価値製品の増加により増益、デバイスが、水晶と半導体ともに減収となったことにより、前年同期比 6億円減益の 11億円の損失。
- 前回予想との比較について。
- 情報関連機器は、前回予想を下回った。
- インクジェットプリンターにおいて、東日本大震災やタイ洪水の影響により生じていたコストダウン計画の遅れを第4四半期で挽回するために取り組んだが、USドルが円安になったことによる費用増などもあり、目標水準を達成するまでには至らなかったこと
また、収益性の高いラージフォーマットプリンターの販売未達、ならびに原材料高騰など、調達コストの増加による変動比率上昇があり、予想を下回った。
- ビジネスシステムは、売上未達により、前回予想を下回った。
- ページプリンターは、消耗品の販売増により、前回予想を上回った。
- ビジュアルプロダクツは、ほぼ予想どおり。
- デバイス精密機器は、デバイスにおいて、成長領域への要員転換による固定費削減や、変動比率改善への取り組みを前倒して進めたことなどにより前回予想を上回った。

営業利益増減要因分析



■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2010年度 第4四半期の営業損失 11億円 に対し、
価格変動、為替影響の 減益要因があったもののコスト変動、販管費減少、
数量変動の増益要因により、四半期営業利益は 35億円。

貸借対照表主要項目推移



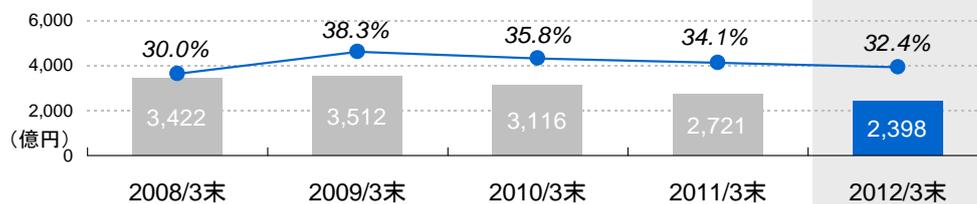
■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、棚卸資産の増加があった一方、手元資金の減少などにより、前期末に比べ 574億円減少。

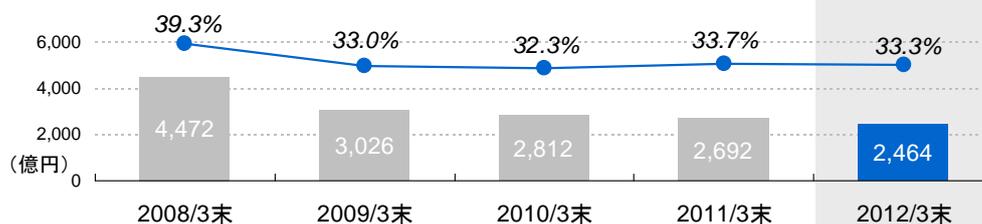
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率

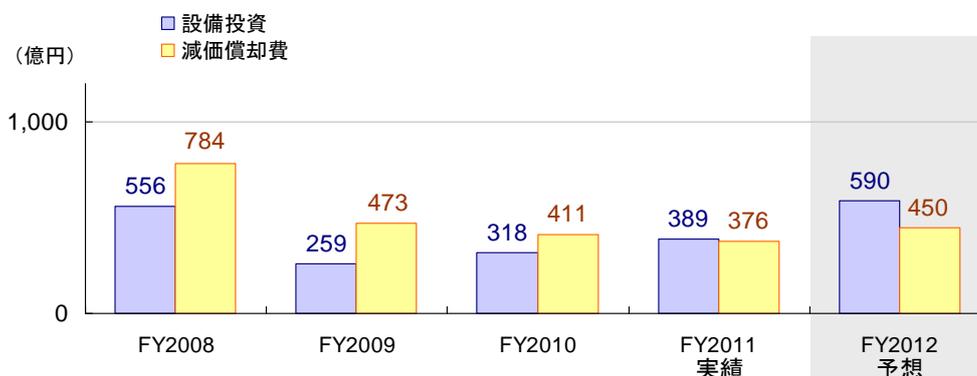


*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、借入金の返済を進めたことにより 前期末に比べて 323億円減少し、総資産の有利子負債依存度は 32.4%。
ネット有利子負債は、898億円。
- 自己資本は、昨年11月に実施した自己株式の取得などにより、228億円減少し、その結果、自己資本比率は 33.3%。

設備投資・減価償却費予想

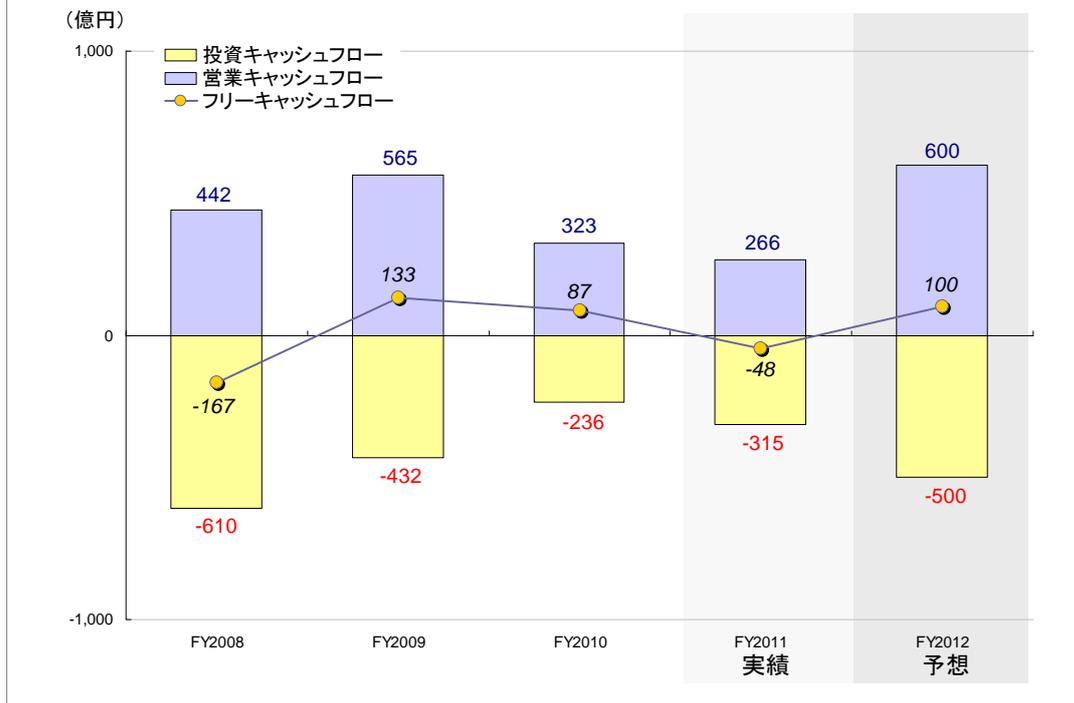


<セグメント別内訳>	FY2011実績		FY2012予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	295	227	420	280
デバイス精密機器	68	101	120	120
その他・調整額	25	46	50	50

■ 設備投資と減価償却費

- 2012年度は、情報関連機器を中心に設備投資は 590億円、減価償却費は 設備投資が増加することにもない、450億円を予想。

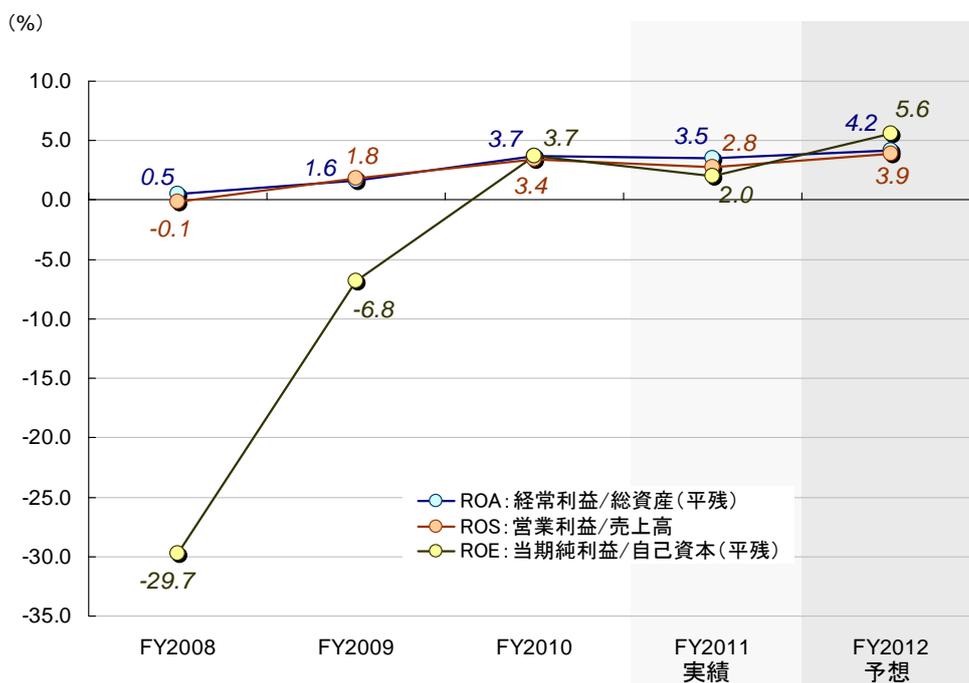
フリーキャッシュフロー予想



■ キャッシュフロー

- 2011年度のフリーキャッシュフローは前期比 136億円減少の マイナスの48億円。
- 営業キャッシュフローは、たな卸資産の増加などにより、前期比 57億円減少の266億円の収入。
- 投資キャッシュフローは設備投資の増加により、前期比 79億円増加の315億円の支出。
- 2012年度のフリーキャッシュフローは、100億円を見込む。設備投資の増加により 投資キャッシュフローが増加するが、税引前利益の改善と在庫削減により、営業キャッシュフローが改善。

主な経営指標の推移



■ 主な経営指標

ROSは 3.9 %、 (営業利益率)

ROAは 4.2 %

ROEは 5.6 %

EPSON
EXCEED YOUR VISION